

指標の点検評価結果

1. 評価方法

計画の点検・評価に当たっては、基本方針ごとに設定された指標を用いて、施策の進捗状況や目標の達成状況について担当課による自己評価を行うとともに、環境基本計画推進会議による点検及び評価コメントを行います。

■項目評価

指標ごとに、3つの評価項目（単年度達成率、進捗率、行動指針・目指す方向性）について評価します。

<点検評価基準表>

項目	5点	4点	3点	2点	1点
単年度達成率	単年度目標をほぼ達成している。 (達成率85%以上)	単年度目標を75%以上達成している。	単年度目標を50%以上達成している。	単年度目標を25%以上達成している。	ほぼ未着手 (達成率25%未満)
進捗率		最終目標に順調に近づいている。 (最終目標進捗率80%以上)	最終目標に近づいている。 (最終目標進捗率70%以上)	最終目標に少し近づいている。 (最終目標進捗率60%以上)	最終目標に近づいていない。 (最終目標進捗率60%未満)
行動指針 ・ 目指す方向性				【別記】R5指標別点検評価基準表 <行動指針・目指す方向性基準表>	

【別記】令和5年度 指標別点検評価基準表

指標No.1	学校園での環境出前講座開催数		
項目	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性	学校園等への出前講座のメニューを更新し、さらに広報の回数や配布先を増やすなど様々な取組を追加して実施。	学校園等への出前講座のメニューを更新、又は広報の回数や配布先を増やすなど工夫して実施。	学校園等への出前講座のメニューをそのまま、広報を例年通り実施。

指標No.2	環境保全活動に参加したいと思う市民の割合		
項目	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性	市民を対象にした環境保全啓発活動や環境イベントの内容を更新し、さらに回数を増やすなど様々な取組を追加して実施。	市民を対象にした環境保全啓発活動や環境イベントの内容を更新、又は回数を増やすなど工夫して実施。	市民を対象にした環境保全啓発活動や環境イベントを例年通り実施。

指標No.3	市域の温室効果ガス排出量		
項目	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性	啓発事業だけでなく、市民や事業者に向けた太陽光発電設備設置補助等の排出削減施策を大々的に追加実施。	市民や事業者に向けた排出削減につながる環境ポイント交付事業や啓発を行うとともに、排出削減施策を追加実施。	市民や事業者に向けた排出削減につながる環境ポイント交付事業や啓発を例年通り実施。

指標No.4	市内の再生可能エネルギーによる発電電力量		
項目	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性	市公共施設への再生可能エネルギー導入施策に加えて、宿泊事業者や民間教育・保育施設事業者等への再生可能エネルギーの導入等支援を実施。	市民共同発電所補助事業に加えて、市公共施設への積極的な再生可能エネルギー導入に向けた施策を実施。	市民共同発電所補助事業など事業者に向けた再生可能エネルギー導入施策を例年通り実施。

指標No.5		公共交通利用による観光入込客数		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		観光客に向けた公共交通での来訪を促進する施策を、国の補助金等取得して大々的に追加実施。	観光客に向けた公共交通での来訪を促進する施策を追加実施。	観光客に向けた公共交通での来訪を促進する施策を例年通り実施。

指標No.6		過去5年間の新たな認定新規就農者数（累計）		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		農業の維持に資することを旨とし、新たな認定新規就農者数を増加させるための取り組みとして、就農を促進する農園見学ツアーや、就農イベントへの出展等を行う。	農業の維持に資することを旨とし、新たな認定新規就農者数を増加させるための取り組みとして、就農を促進する農園見学ツアーを行う。	農業の維持に資することを旨とし、新たな認定新規就農者数を増加させるための取り組みを行う。

指標No.7		奈良県産学校給食地産地消率		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		J A奈良県と調整を行い、これまで使用実績のない奈良県産青果を給食に2品以上取入れる。	J A奈良県と調整を行い、昨年使用実績のない奈良県産青果を給食に1品取入れる。	J A奈良県と調整を行い、給食に取り入れやすい奈良県産青果について勉強会を1回以上行う。

指標No.8		1人1日あたりの家庭系ごみ搬入量		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		家庭系ごみ減量のため、ごみの資源化を推進する事業の強化及び新規開始を行うとともに、市民に向けた啓発事業のメニューを更新・追加する。	ごみの資源化を推進する事業を強化するとともに、市民に向けた啓発事業のメニューを充実させる。	ごみの資源化推進事業及び市民向け啓発事業を継続して実施する。

指標No.9		事業系ごみ搬入量		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		事業系ごみ減量に向け、食品ロス発生抑制推進の取組みの強化及び新たな取組みを開始するとともに、事業系紙ごみの資源化への効果的な回収体制を確立する等取組みを行う。加えて、事業所の自主的減量の取組みを推進するため、大規模事業者の廃棄物管理責任者を対象とした説明会の開催等により情報提供を行う。	食品ロス発生抑制推進の取組みを強化するとともに、「雑がみ」を含めた事業系紙ごみの資源化への環境整備を進める。また、大規模事業者の廃棄物管理責任者を対象とした説明会の開催等により情報提供を行う。	引き続き食品ロス発生抑制推進の取組みを行うとともに、事業系紙ごみの減量のため、「雑がみ」の再資源化について広報・啓発を行う。また、大規模事業者の廃棄物管理責任者を対象とした説明会を開催する。

指標No.10		大気環境基準達成率		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		大気汚染防止法上の特定施設（ボイラー等）及びダイオキシン類特別措置法の届出施設への立入検査等を適宜行い、排出基準の遵守状況や施設の管理状況を確認し、事業者への法令順守や環境意識の向上を図る。	大気汚染防止法上の特定施設（ボイラー等）への立入検査等を適宜行い、排出基準の遵守状況や施設の管理状況を確認し、事業者への法令順守や環境意識の向上を図る。	市内の大気汚染物質の測定結果を公表し、広く住民や事業者等への環境保全の動機付けを図る。

指標No.11		河川BOD環境基準達成率		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		浄化槽の維持管理に関する啓発や指導を行い、河川への環境負荷の半分以上を占める生活排水による負荷の削減対策に取り組む。	環境への負荷が比較的大きい水質汚濁防止法上の特定施設（有害物質使用や排水量50ml以上）への立入検査等により、公共用水域へ流出する排水の監視を行う。	河川の測定データの公表や水質改善強化月間における啓発活動を行い、広く住民や事業者等への環境保全の動機付けを図る。

指標No.12		グリーンサポート制度による公園管理率		
項目	評価点	3点	2点	1点
行動指針 ・ 目指す方向性		公園の美化活動を行う市民に対して支援することに加え、広報誌等で制度の周知を行い、新規参加者を募ると共に、活動環境の改善を行い、活動の継続を促すことで、より多くの市民と協働し、適正な公園管理を長期的に行うことができている。	公園の美化活動を行う市民に対して支援することに加え、広報誌等で制度の周知を行い、新規参加者を募ることで、より多くの市民と協働し、適正な公園管理を行うことができている。	公園の美化活動を行う市民に対して支援すること、市民との協働による適正な公園管理を行うことができている。

■総合評価

3つの評価項目それぞれについて採点した結果を基に、指標ごとの総合評価を示します。

総合評価	合計点数
A	9点以上
B	6点～8点
C	4点～5点
D	3点以下

2. 評価結果

<総括>

評価対象指標数	12	令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント
総合評価	A 4	<p>○対策の前倒しの必要性 近年の気温上昇を考えると2030年目標に向かての動き以上に地球温暖化を食い止めるためには前倒しの動きが必要である。徹底的な省エネ(断熱改修含む)とエネルギー利用の効率化と再生可能エネルギーの大量導入など従来の手法の積み重ねを優先順位を間違わずに一刻も早く確実に実行すればまだ間に合うとも言われている。市民一人ひとりの行動変容が不可欠であり、そのためにはあらゆる機会を利用した啓発活動と、助成金等による設備導入への後押しが必要である。</p> <p>○対策を進めるために 温暖化対策と適応策は自治体としても重要課題であり、それには人的な配置と予算措置が今後の方向性の鍵をにぎる。ゼロカーボン宣言を行った奈良市は、県や宣言をした県内外自治体とともに、国にも働きかけて一歩でも前に進めていただきたい。</p> <p>○全体を通じて 全体的には計画が順調に進捗しているように見受けられ、様々な項目に対して目標を持ち実施され多くの項目で目標を達成されていることは評価出来る。環境基本計画は幅広い課題を掲げているが、より一層横断的に連携して全体で温暖化対策(特に温室効果ガス削減)と、市民の生活や命を守る適応策を結びつけられるようになることを期待したい。</p>
	B 6	
	C 2	
	D 0	

<基本方針ごとの指標別評価結果>

基本方針	No.	指標	単位	策定時	年度	目標値・実績値・総合評価			令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント
						2023 (R5)	2031 (R13)		
①	1	学校園での環境出前講座開催数	講座	122	2019	目標値	126	150	「ECOキッズ1なら子ども」の取組を中心に、目標値・実績値共に昨年を上回った事は素晴らしい。新型コロナウイルスが第5類に変更になり、対面での出前講座が増えたことも増えた要因であろう。コロナ感染症以降の講座増加率などの考察・検討しても良いのではないかと。保育園、幼稚園などの時期から環境教育をおこなうことは学習した子どもの知識や意識の向上だけでなく、家庭内で環境意識向上に非常に効果的と思われるので、今後も積極的に進めてほしい。また一定数の出前講座が実施出来ていることから関係者、関係団体とともに協議をおこなっていただき、小学校3年生だけでなく小学校高学年や中学生へのフォローアップの検討も行い、より良い講座内容と広報をおこなうことで講座開設数が増えることを期待する。
						実績値	127		
						総合評価	B		
	2	環境保全活動に参加したいと思う市民の割合	%	54.8	2021	目標値	56.8	65	市民を対象にした環境保全啓発活動や環境イベントの内容を更新して、参加しやすいようなイベントを開催するとよいと思われる。さらなる達成率上昇のためには、参加者の年齢層を調査し、世代に見合った啓発活動を検討されたら良いのではないかと。環境関連のイベントとして生き物関係は子どもに人気があり子どもと共に保護者の参加もあることから有効だと思う。環境保全活動という難しいイメージがあったりするので、参加しやすい楽しい企画をおこなうことで関係人口が増えることを期待する。
					実績値	61.4			
						総合評価	B		

基本方針	No.	指標	単位	策定時	年度	目標値・実績値・総合評価				令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント
						2021 (R3)	2022 (R4)	2030 (R12)	2031 (R13)	
3	市域の温室効果ガス排出量	千t-CO ₂	1,436	2019	目標値	1,239		905	啓発事業だけでなく、公共施設への太陽光発電施設の設置や本庁舎のZEB化に向けた取り組みに着手されており評価できる。また、家庭部門の排出削減に向けて市民一人一人の行動実践を促すことは重要であると思われるので、あらゆる機会を通じて手軽に取り組めて効果の高い脱炭素行動の啓発が望まれる。また、どの施策でどのような成果がでているのかも記載するよう検討すべきである。2030年目標の達成に向けては太陽光発電の設置の後押しとともに断熱や蓄電池、パワースタイル太陽電池のような新しい機器の導入についても補助をおこなうなどの積極的な後押しを期待する。	
					実績値	1,301				
					総合評価	C				
②	市内の再生可能エネルギーによる発電電力量	MWh	149,440	2020	目標値		204,249	712,245	災害時の市民の避難場所である公共施設への再生可能エネルギーの導入は、有時のエネルギー源確保の上でも重要であり、令和6年に繰り越しにはなつたが事業を推進されていることについては評価出来る。市内の再生可能エネルギーによる発電電力量の目標値は、かなり高さらるに施策を推進していく必要がある。その上で、改めて最終目標値までの積み上げの計画を練り、半年度目標においても未達成の要因を分析する必要がある。また、今後は自家消費型の再生可能エネルギー施設が増えていくため、市内の再生可能電力量を把握する方法の検討も必要であると思われる。引き続き、公共施設等へ再生可能エネルギーの積極的な導入を行っていき、民間事業者への補助を行っていくことであるので期待する。	
					実績値		164,973			
					総合評価		B			
5	公共交通利用による観光入込客数	万人/年	1,571	2019	目標値		1,594	1,664	目標値と実績値の乖離が大きいが、コロナ禍の影響が残っている場合には観光入込客数全体の減少が大きく影響しているため、低評価とは言えない。コロナ禍で観光客の来県が減少していたが今後は急激な来県人数増が予測される。公共交通利用者が入場料等を割引利用できるように誘導施策などは実施できないだろうか。広報対象や手法を検討したほうが良いかもしれない。また、公共交通の利用が奈良公園周辺の自然を守ることに繋がっているという積極的な発信を行うなど、理解者を増やすための広報に期待する。	
					実績値		772			
					総合評価		C			

基本方針	No.	指標	単位	策定時		目標値・実績値・総合評価			令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント	
				年度		2023	2026	2031		
						(R5)	(R8)	(R13)		
③	6	過去5年間の新たな認定新規就農者数(累計)	人	8	2020	目標値	6	11		目標を達成しており高評価である。就農促進ツアーの参加者も多く、広報活動も継続して行われることを願う。このような取り組みを拡大するため、PR方法を検討して頂きたい。市内新規就農者に対して引き続き農業次世代人材投資資金・経営開始資金及び経営発展支援事業補助金を必要に応じて交付することはとてもよいと思う。今後は高齢化から耕作放棄地が増えることも予測されることから、農業従事者を増加を目指す動きと共に奈良市産の農産物の価値向上についても支援していくことで横展開や新しい人材との接点が増え、結果として新規就農者が増える可能性もあることから広い視野での行政支援に期待する。
						実績値	8			
						総合評価	B			
	7	奈良県産学校給食地産地消率	%	41	2020	目標値	50	50		
						実績値	47.1			
						総合評価	A			

基本方針	No.	指標	単位	策定時		目標値・実績値・総合評価			令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント	
				年度		2023	2031			
						(R5)	(R13)			
④	8	1人1日あたりの家庭系ごみ搬入量	g	433	2019	目標値	403	363		今年度目標を達成しており、経年的にも減少が続いているので大変評価できる。「ごみ減量キャラバン」や「食品ロス削減キャラバン」の実施が家庭内でのごみ減量には効果的で結果として目標を達成できていることは評価できる。引き続き「ごみ減量キャラバン」などを通じた、プラごみ、食品ロス、食品ロス、紙ごみ削減を中心に家庭系ごみの減量を図るわかりやすい施策を積極的に展開し、さらに多くの小中学校等に啓蒙活動の検討を期待したい。また、これらの施策を通じて、ごみ削減が脱炭素にも繋がることも広報し、市民に「ごみ減量」の意識を高められるようにしていただきたい。
						実績値	398			
						総合評価	A			
	9	事業系ごみ搬入量	t	33,458	2019	目標値	31,069	26,519		
						実績値	30,048			
						総合評価	B			

基本方針	No.	指標	単位	策定時		目標値・実績値・総合評価			令和5年度実績に対する推進会議の評価コメント	
				年度		2023	2031			
						(R5)	(R13)			
⑤	10	大気環境基準達成率	%	100	2021	目標値	100	100		すべての測定地点及び項目で環境基準値を継続して下回っているのは素晴らしい。光化学スモッグ注意報が発令された年もあり、従来の監視体制を続けていくことが望まれる。また、引き続き大気汚染防止法上の特定施設(ボイラー等)への立入検査を適宜行い、排出基準の遵守状況や施設の管理状況を確認し、事業者への法令順守や環境意識の向上を図ることであり、継続して基準達成を期待する。
						実績値	100			
						総合評価	A			
	11	河川BOD環境基準達成率	%	100	2021	目標値	100	100		
						実績値	100			
						総合評価	A			
	12	グリーンサポート制度による公園管理率	%	35.4	2021	目標値	37	45		
						実績値	37.7			
						総合評価	B			